

国際社会学部

青山弘之

Hiroyuki AOYAMA

地域社会研究コース／中東地域
地域研究、政治学、歴史学



ダマスカスにて（2019年撮影）

シリアを知ることは、人類の叡智をもって現代社会の問題に取り組むこと

専門は現代のシリア（東アラブ地域）の政治、歴史、思想です。

ここでいうシリアとは一義的にはシリア・アラブ共和国を意味していますが、20世紀に入る以前は、東はイラン高原、西は地中海、南はアラビア半島、北はアナトリア半島によって囲まれる地域を指していました。東アラブ地域、歴史的シリア、あるいは「肥沃な三日月」と呼ばれる地域です。

シリアは、古来より東西交易の要衝に位置し、また三大一神教、アルファベット、農業が発祥・発展した地です。それゆえに、長らく人類の歴史を主導し、繁栄を享受してきましたが、外国の侵略や支配が絶えず、幾度となく混乱や衰退を経験してきました。20世紀に入って以降は、アラブ・イスラエル紛争（パレスチナ問題、中東和平問題）、湾岸危機・戦争、イラク戦争、レバノン紛争、「アラブの春」に端を発するシリア内戦などが発生し、紛争、テロ、難民といったさまざまな問題に直面しています。これらの問題は、ともすると欧米諸国における学問的な蓄積や価値判断に基づいて評価され、解決策が模索されがちです。しかし、こうした試みが、現地の実情、そこで暮らす人々、彼らが培ってきた思考様式、価値観、制度を熟知せずに行われれば、机上の空論の域を脱することはできず、地に足の着いた考察を行うこともできません。シリアに言及することなく、現代社会が抱える数々の問題を語ることはできません。また、シリアに言及することなく、有史以来の人類の叡智を語ることもできません。シリアにじかに触れ、シリアから学びとることは、人類の叡智をもって現代社会の問題に取り組むことに他ならないのです。

研究紹介



シリアでは2011年に「アラブの春」が波及し、シリア内戦が発生しました。「今世紀最悪の人道危機」と称されたこの紛争によって、シリア国内は政府、アル=カーイダ系組織を主体とする反体制派、トルコが「分離主義テロリスト」とみなすクルド民族主義勢力によって分断される一方、米国（有志連合）、トルコ、イスラエルが領土の一部を占領し、ロシア軍、そしてイランの支援を受ける武装勢力が各地に駐留・展開し、イスラーム国も依然潜伏を続けています。シリア内戦は、独裁vs民主主義という勧善懲悪のストーリーとして思い描かれてきましたが、実態はより複雑で、さまざまな当事者がさまざまな争点をめぐって争っています。

こうした虚像と実像の乖離、それによってもたらされる弊害を明らかにするため、「シリア・アラブの春：最新シリア情勢」（<http://syriaarabsspring.info/>）を運営し、シリアで日々何が起きているのかを明らかにするとともに、「現代東アラブ地域政治の専門家：青山弘之」（<https://news.yahoo.co.jp/byline/aoyamahiroyuki>）を通じて時事分析を行っています。またこれらの研究活動を集約するかたちで、啓蒙・研究書籍を公刊しています。このほか、「現代中東政治研究ネットワーク（CMEPS-J.net）」（<https://cmeps-j.net/ja/>）でシリア、レバノンなどの基本情報を公開しています。

担当授業

- 中東／西アジア・北アフリカ地域基礎（アラブ地域）
- ナショナリズムとイスラーム主義（国家・民族・宗教）
- 現代中東（西アジア・北アフリカ）地域政治
- 中東を理解するキーワード（リレー講義とりまとめ役）
- 中東諸国の現在（リレー講義とりまとめ役）
アラビア語

関連する分野

- 国際関係論
- 紛争論
- 平和構築論
- 国際政治学
- 比較政治学
- 移民・難民問題



国際社会学部

現代中東（西アジア・北アフリカ） 地域政治ゼミ

近年の西アジア・北アフリカ（中東）地域情勢、とりわけアラブ地域情勢は、同地域から発信される情報が政治的偏向を免れず、また欧米（さらには日本）のメディアやアカデミアがこうした情報の是非を充分検証しないままに無批判に受け入れる傾向が強いため、実情把握が困難になっています。とくに西アジア・北アフリカ（中東）地域で起きている政治的な出来事のなかには、現実とはまったく異なった評価・解釈がなされているものさえあります。

こうした現状を踏まえて、本ゼミナールでは、今日のアラブ地域を中心とする西アジア・北アフリカ（中東）地域で起きている政治的な出来事を、可能な限り現実にも即したかたちで把握することを目指します。具体的には、西アジア・北アフリカ（中東）地域における近年の政治変動を扱った日本語および現地語の一般書・研究書の輪読、個人研究などを通じて、「民主化」、「権威主義」、「体制転換」、「紛争」、「人権」、「主権」、「内政干渉」、「宗派主義」、「民族主義」、「イスラーム主義」、「テロとの戦い」などについて批判的に考察します。

出版物

シリア研究

- 『混迷するシリア：歴史と政治構造から読み解く』
(https://cmeps-j.net/publications/syria_in_turmoil_2012)
- 『シリア情勢：終わらない人道危機（岩波新書）』
- 『膠着するシリア：トランプ政権は何をもたらしたのか』
- 『ロシアとシリア：ウクライナ侵攻の論理』

アラビア語

- アラビア語『大学のアラビア語：詳解文法』（共著）
- 『大学のアラビア語：表現実践』（共著）
- 『大学のアラビア語：初級表現』（共著）



夜のダマスカス（2018年撮影）

卒論

- 「イスラム国が暴力行為から得ている効用：心理学的、解剖学的アプローチ」
- 「ドファール戦争におけるアラブ系住民の離反」
- 「〈レンティア〉としての難民：パレスチナ難民、シリア難民がヨルダンにもたらした利益」
- 「イラクの隙間で生活するイスラーム国」
- 「ペルシア・アイデンティティとイスラーム・アイデンティティ：ドバイ万博イラン・パビリオンの分析を通じて」

詳しくは[http://cmeps-](http://cmeps-j.net/aljabal/seminar.html)

[j.net/aljabal/seminar.html](http://cmeps-j.net/aljabal/seminar.html)をご覧ください。

おススメの本

- 青山弘之（編）『「アラブの心臓」に何が起きているのか：現代中東の実像』
(https://cmeps-j.net/publications/ara_shin_0)
- 今井宏平（編）『クルド問題：非国家主体の可能性と限界』
- 酒井啓子（編）『中東政治学』
- 高岡豊『「テロとの戦い」との闘い：あるいはイスラーム過激派の変貌』
- 浜中新吾・青山弘之・高岡豊『中東諸国民の国際秩序感：世論調査による交際関係認識と越境移動経験・意識の計量分析』

（地域社会研究コース 青山弘之ゼミ）

青山ゼミでは中東の事柄であれば何でも OK! という研究テーマに関してはとても自由なゼミです。授業内では本の輪読、それについてのプレゼンテーション、そこへの鋭い質問、そこから派生する議論を一連の流れとして年間を通して行います。また各々自分の興味関心がある事柄をプレゼンテーションでは発表するため、ほかのゼミのメンバーの発表を聞いて、中東の他の国や事柄にも興味を抱くことのできるため、「中東の探索」と「自身の興味の深堀」を両方できるのが魅力だと思います。さらに時折、ゼミの卒業生の方や青山先生のお知り合いの中東研究の専門家がゼミに来てくださり、ゼミに参加していただけることも！

さあ！ユーモラスな青山先生とその仲間ともに、広大な中東世界へその手を伸ばしてみませんか？（赤塚大輝）